

# 実験教育に携わる TA のための OJT 開発に向けた課題調査

Investigation of tasks with the idea of on-the-job training for teaching assistants  
involved with the laboratory classes

荻野 禎之<sup>1,2</sup> 松葉 龍一<sup>1</sup> 平岡 齊士<sup>1</sup> 江川 良裕<sup>1</sup>

Yoshiyuki OGINO Ryuichi MATSUBA Naoshi HIRAOKA Yoshihiro EKAWA

<sup>1</sup>熊本大学大学院

<sup>2</sup>早稲田大学

<sup>1</sup>Graduate School of Instructional Systems, Kumamoto University <sup>2</sup>Waseda University

〈あらまし〉 早稲田大学で実験教育に携わるティーチングアシスタント (TA) は、担当教員や実験室を管理する技術職員と共にチームティーチングの体制を組み、学生の学びを支援している。TA の研修は制度説明の e ラーニングと各実験室で行うトレース実験から成るが、学生との関わり方は限られた時間の研修だけでは十分に学ぶことができず、実際の業務での経験学習を通じて継続的にスキルを習得する必要がある。そこで、実験教育に携わる TA を育成する OJT の開発を念頭に置き、研修や TA 業務の現状を分析し課題について 3 点を明確にした。

〈キーワード〉 実験教育、ティーチングアシスタント、チームティーチング、経験学習、OJT

## 1. はじめに

早稲田大学ではティーチングアシスタント (TA) の種別として、ディスカッションのファシリテーションによる学習支援など、より高度な業務に従事する「高度授業 TA」が設置されている。実験教育に携わる高度授業 TA は、担当教員や実験室を管理する技術職員と共にチームティーチングの体制を組み、学生にさらに深い学びを喚起する上で重要な存在を担う。

高度授業 TA が遂行するべきタスクとして、「A. 授業中の学習支援」、「B. 授業準備における支援」、および「C. 授業後の支援」の 3 種類のカテゴリが設定されている。これらはさらに「A.1. ディスカッションセッションの支援」、「B.1. 実習課題・演習課題の提案」、「C.1. 実験機器・装置の清掃・整理整頓」などの 13 のサブカテゴリに分けることができる。

高度授業 TA 育成の場として、TA 制度や授業の展開方法を説明する e ラーニング (研修①) と、各授業の担当教員が授業内容や TA 業務の説明・練習の機会 (研修②) が設けられている。実験科目における研修②では、技術職員が指導者役、高度授業 TA が学生役となり実験内容をトレースしながら、実験装置の操作方法や準備・後片付けの方法を習得する。

その後、高度授業 TA は 15 週に渡って実験室においてチームティーチングの体制で学生の学

習を支援する。特に多くの学生が履修する実験科目では、個々の学生やグループの状況に応じて個別の対応が必要となる。

以上のような研修と業務の仕組みが存在する一方で、高度授業 TA が求められる役割・タスクを必ずしも十分に遂行できていない場面も見られる。限られた時間の中で学生との関わり方を学ぶことは難しく、実際の業務時間を活用して OJT の形式で継続的に習得していくことが必要と考えられる。そこで本発表では、OJT の開発に向けた前段階として、現在の高度授業 TA 向け研修と業務について分析し課題を抽出する。

## 2. 研究方法

13 種類のサブカテゴリに分けられる高度授業 TA のタスクをさらに細分化し、具体的な行動のレベルで 36 項目を記載した。研修①の映像コンテンツ・確認テストの内容、および研修②における高度授業 TA や技術職員の行動を精査し、36 項目の行動のそれぞれについて、現在の研修①と②を通じた達成度を分析した。

また、著者が勤務する実験室で実施されている実験授業での高度授業 TA の様子の観察を踏まえ、高度授業 TA に求められるタスクが遂行できているか、TA 業務を通じて高度授業 TA 自身が学習することができているかの観点から、現在の達成度を分析した。

